

しょうけい館 次世代の語り部

夏の講話会



2026(令和8)年

8月11日(火)

8月13日(木)

8月15日(土)

13:00~14:00

会場

しょうけい館2階 シアター

参加費無料・入退場自由

次世代の語り部とは

戦後80年以上が経過し、戦争体験者の高齢化が進み、体験を語ることができる人が少なくなっています。だからこそ、戦中・戦後の体験や過酷な生活状況を、後世に語り継いでいく必要があります。

その一環として戦後生まれの語り部が、戦傷病者とその家族の戦中・戦後の労苦を次世代に語り伝えていく「次世代の語り部活動事業」を2019年度から実施しています。

夏の講話会 講話内容

8月11日(火) 13:00~14:00

講話1「6人の戦傷病者とその人生」

異なる状況で怪我や病気になった戦傷病者6人の話をします。
各々の戦傷病者が体験した、さまざまな労苦を伝えます。

講話2「癒えない傷に耐えて」

戦闘で左脚を切断した戦傷病者の話をします。
義足をつけての訓練、同じ境遇の者にしか分からない苦しみ、戦後も続く傷の痛みなど、厳しい日常生活を耐え抜いた人生を紹介します。

8月13日(木) 13:00~14:00

講話1「一筋の光を求めて」

両眼失明となった3人の戦傷病者の話をします。
目が見えないというハンディを抱えながらも家族とともに懸命に生きた方々の姿をお伝えします。

講話2「苦しみを独り生きて」

戦闘で左脚を切断した戦傷病者の話をします。
義足をつけての訓練、同じ境遇の者にしか分からない苦しみ、戦後も続く傷の痛みなど、厳しい日常生活を耐え抜いた人生を紹介します。

8月15日(土) 13:00~14:00

講話1「ひめゆりの悲劇」

ひめゆり学徒隊として医療活動に従事する中、左脚を受傷した方の話をします。
戦後は傷の痛みを抱えながらも、教師として働きました。

講話2「おじちゃんの腕、へんなんだよ」

両腕を失い、片眼も失明した戦傷病者の話をします。
両腕は、義手を使わず自分の感覚で動かせるよう、手術を受けましたが、見た目が独特であり差別を受けることもありました。家族や同じ境遇の仲間との絆を糧に強く生きた姿を紹介します。

アクセス

●地下鉄をご利用の場合

- ・東京メトロ「九段下駅(東西線・半蔵門線)」
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- ・都営地下鉄「九段下駅(新宿線)」
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

●バスをご利用の場合

- ・♀ 都営バス「九段下(飯64系統)」より徒歩4分
- ・♀ 千代田区コミュニティバス「千代田保健所(九段下駅)」
より徒歩5分

